

## 平成23年度第1回小牧市文化財保護審議会議事要旨

日時	平成23年5月31日（火） 午前10時～正午
場所	小牧市役所 南庁舎 会議室2-3
報告・議題	報告（1）平成22年度文化財保護事業について 議題（1）平成23年度文化財保護事業について （2）現地調査について （3）先進地視察について
出席者	委員：池田委員、入谷委員、江尻委員、河田委員、小林委員、曾我委員 多田委員、田中委員、波多野委員、藤岡委員、増田委員 事務局：中嶋教育部長、落合教育部次長、後藤課長、山下補佐、 山本係長、坪井主査
傍聴者	なし
会議経過	以下のとおり

### 1 あいさつ

〔教育部長〕

引き続き委員を引き受けていただきありがとうございます。

小牧山の整備について、昨年度の主郭地区発掘調査で信長時代の石垣が大変良好な状態で発見され、3月に現地説明会を行いました。

信長時代の石垣については、これまでの常識では、信長が小牧にいた時代にあのような完成度の高い石垣が造られるはずがないというものであり、石垣の時代感について疑問を投げかける意見もあります。

4月に、発見の内容が重大なことから文化庁より説明を求められ、その結果、石垣の整備は慎重に行うようにとの話で整備方針の再検討が必要になった。調査を3年ほど継続して主郭地区の石垣、遺構の全体像を把握し、それを情報発信し、石垣の評価が定まってから整備計画に進める方向で見直しをしている。

小牧山の価値が上がることであり、市民にとっては郷土の誇りがさらに確かなものになると考えている。今日は、議題について忌憚のない意見をいただきたい、よろしくお願ひします。

### 2 会長・会長職務代理者の選出

会長：江尻委員、会長職務代理者：入谷委員を選出。

### 3 会長あいさつ

先だって早稲田大学ラグビー部監督の竹中竜二の「判断と決断」という本を読んだ。判

断は、過去のいろいろな情報を頭に入れて行う、決断は未来のことを考えるというものである。

また、先だって福岡県・筑豊の炭坑の生活を描いた絵画や日記がユネスコの記憶文化遺産として登録されるというニュースがあった。初めて聞いた言葉であるが、文化財についての話など、小牧でもそういう面が出てくるのではと夢をみた感じであった。先生方にお助けいただいて2年間一生懸命やりたい。

#### 4 報告

##### (1) 平成22年度文化財保護事業について

- ・資料1により事務局から説明。

※委員から次のような意見があった。

##### ●古文書調査に関連して

〔委員〕古文書は市内にまだまだあると思うが、発掘と継続調査を続けていきたい。古文書は人によって扱いが異なり、散逸や破棄されてしまうことが心配である。持ち主の方から情報や資料提供をしてもらえる環境作りが大切であり、過去に苦い経験もあるが、教育委員会が古文書の調査をやっているということを市民に知ってもらう広報活動が大切である。

##### ●コモウセンゴケ群落について

〔委員〕トウカイコモウセンゴケは以前より段々減っている。コモウセンゴケ群落について、堰を作って湿性を保ってきたが、誰かが堰の水を切ってしまったり、東海豪雨で水路が変わったりしてしまった。大きな石などを置いて、水が適当にしみるような手立てをしてほしい。小牧には湿性湿原がなく、トウカイコモウセンゴケは以前より減っているので、後々には天然記念物にしてもよいのではと思う。また、以前マメナシの葉が害虫に食われたことがあるが、バラ科の植物は虫がつきやすいので、計画されているように消毒を2回やってもらうことは良いことである。

##### ●史跡小牧山主郭地区発掘調査説明会について

〔委員〕小牧山の現地説明会では、多くの人が集まっていたが広報の方法はどのようなものか。

〔事務局〕新聞報道によるものです。

##### ●歴史館企画展について

〔委員〕企画展期間中の入場者は一日約150名になるが、関心をもつ市民の底力が感じられる。新聞で報道がされると、歴史に関心を持つ市民が活性化されて動きが出てくるのではないか。

〔委員〕小牧山と江崎家という企画であったが、この関係性が市民にはよく分からないので、分かりやすく知らせる必要がある。

##### ●文化財説明板について

〔委員〕歴史や文化財に対する関心が高くなったせいかな地元の城跡を見学に来る人もある。こうした場所に表示があると便利であり、新聞に掲載されるとインターネットで宣伝してくれる人もある。

〔委員〕マスコミの効果は数日だが、説明板は継続して効果が得られるので、設置を継続してほしい。そういう歴史的なものがあつたという説明板があれば、最近は見に来た人がすぐにブログなどで広げてくれるという効果もある。

〔委員〕小牧は現地だけに説明板があるが、他市ではそこへ行くまでの経路にも案内板が2枚ぐらいついているところがある。こうした案内板があることで現地に行きやすくなるため、小牧でも設置してはどうか。地図もよいが、地図の場合は知っている人の立場で作ってしまうため分かりづらいものになってしまう。知らない人の立場で作ってほしい。

## 5 議題

(1) 平成23年度文化財保護事業について

・資料2により事務局から説明。

※委員から次のような意見があつた

### ●歴史ガイドボランティアについて

〔委員〕ボランティアは3団体とのことだが、登録数がこれだけか。

〔事務局〕4団体に声をかけたが、1団体から活動が難しいとの回答があり、協力いただける団体が3団体です。

〔委員〕団体名は。

〔事務局〕ろだん小牧、風の会、たぶの木会の3団体です。

〔委員〕たぶの木会は何名ほどで活動しているのか。

〔事務局〕15名ぐらいです。当初は、皆さんが歴史の勉強をしたいというところから始められたので、外へ向けての活動となると、協力していただける方・自身の勉強を続けたいという方が出てきます。

### ●その他

〔委員〕尾張小牧歴史文化振興会は、今年も昨年同様の活動をされるのか。

〔事務局〕平成22年度に、文化庁より文化財を活用して地域に広めていく補助事業が始まった。この事業は直接団体が文化庁へ申請できるものであり、そこに手を挙げられた。基本的には3年間ということなので、今年も事業を実施される予定です。

〔委員〕登録文化財について、事業計画の中に一項目として挙げることはできないか。小牧高校講堂、塚原邸、常懐荘、清流亭の前にあつた舟着場に関する絵図面、岸田家の文書、和宮が中山道を通るときに提供した物品の記録などがあり、話としては出ているが、小牧としてこれといった動きがとられていない。

〔事務局〕法律、条令に基づいた仕事をしており、文化財もいろいろなものがある。重要

なものがあれば、この会で審議し、調査などの方向性を出してもらえばよい。登録文化財については、登録するためには色々と調べなければならず、費用を自己負担してやりたい人もいればまったく受け付けてくれない人もいる。働きかけはするが、個人の財産をどうするかということでなかなか難しく、軽視しているものではない。個別案件については、制度のメリット、デメリットを踏まえて登録への動きがある案件もある。

〔委員〕小牧市は、考古学面は発展したが古文書面では遅れている。しかし、愛知文教大学に協力してもらって古文書を読む人が集まり、人材育成をしているのは大きな功績だと思う。

〔委員〕登録文化財としては、項目に挙げてもらった方が良いと思う。項目に挙げることで、こうした分野も進めているということも言えるし、状況を報告しながら進めていただきたい。古文書では、遠慮せずにPRして市民の注意喚起、賛同者を巻き込んでいってほしい。

〔委員〕今回の事業計画では、項目として挙げることはできなくとも、意見のあったような意識・考え方で、進捗を確認しながら進められるようお願いしたい。

(2) 現地調査について

11月11日(金) 三ツ瀨、舟津方面で検討。

(3) 先進地視察について

10月6日(木)～7日(金)

希望地があれば、会長へ連絡を。